

# 2007東北こどもサミットin仙台

## 「守り育てよう！ぼくらの水土里」

東北6県の小学生が農業・農村を通じた総合学習の成果を発表  
仙台市で東北こどもサミット開催

9月8日(土)仙台市青年文化センターにて、「2007東北こどもサミットin仙台～守り育てよう！ぼくらの水土里～」を開催しました。

現在農村では、農家の高齢化やゴミの投棄など様々な問題が出てきており、水や農地(土)や農村環境(里)を農家だけで守っていくことが難しくなっています。

そこで、このサミットでは、これまで築き上げられてきた「水土里」を農村だけのものではなく、「みんなの宝として未来へ守り育てていくにはどうすればいいのか」を、東北6県の代表小学校の児童による事例発表も交えながら一緒に考えました。

サミットには総勢約350人、うち小学生約150人が参加しました。



こどもサミット パネルディスカッションの様子

### 開催経緯

第1回	タイトル:「ふるさとって何だろう」
平成14年度	とき・ところ:平成15年2月22日 仙台サンプラザ
第2回	タイトル:「ふるさとへの思いと未来」
平成16年度	とき・ところ:平成16年10月30日 山形国際交流プラザ
第3回	タイトル:「未来へつなごう！水土里はみんなの宝物」
平成17年度	とき・ところ:平成17年10月1日 仙台国際センター
第4回	タイトル:「伝えよう！地域の水土里の大切さ」
平成18年度	とき・ところ:平成18年9月9日 仙台国際センター
第5回	タイトル:「守り育てよう！ぼくらの水土里」
平成19年度	とき・ところ:平成19年9月8日 仙台市青年文化センター

## プログラム

### アトラクション

戦隊ショー 植樹ウーマン コノハ

### こどもサミット

#### (1)事例発表

青森県 南部町立剣吉小学校  
「小さな命いっぱい、わくわく学習、  
生き生きチャレンジ」

岩手県 奥州市立胆沢第一小学校  
「チャレンジ！胆沢の米づくり」

宮城県 仙台市立岡田小学校  
「無農業の学校水田  
『わたしたちの岡田米作り』」

秋田県 湯沢市立川連小学校  
「川小どろんご学校  
～育てる喜び 作る楽しさ 食べるうれしさを～」

山形県 高島町立二井宿小学校  
「二井宿小の農と食  
～栽培から食を考える～」

福島県 須賀川市立白江小学校  
「ふるさとのおよさを見つめ、守り、育てる  
～田んぼの学校の活動を通して～」

東北農政局農地整備課  
「地域の環境を守る東北の子どもたち」

#### (2)パネルディスカッション

##### コーディネーター

仙台市立高砂小学校教頭 川村 達

##### パネリスト

事例発表を行った児童

家根合地区環境資源保全隊長 佐藤 昭一  
水土里ネット上流はさま川理事 鹿野 清一

## こどもサミットの様子

### 開会あいさつ

東北農政局次長 みやもと ひとし 宮元 均

「田んぼや畑、小川や水路のある農村」には、米や野菜などを作ったりするほかに、雨の日に水を貯めて洪水を防いだり、生き物のすみかになったり、美しい景色を見て私たちの心や体が元気になったり、いろいろな働きを持っています。

しかし、今、農村では農業をする人が減って、田んぼや畑や水路を守っていくことが難しくなり、農村の美しい風景がこわれかけてきています。このままだと、農村が持っているいろいろな働きがなくなってしまうです。

今日の東北こどもサミットでは、美しい農村を、「みんなの宝として未来へ守り育てていくにはどうすればいいのか」ということについて、皆さんと一緒にたのしく考えたいと思います。」とあいさつし、開会しました。



開会あいさつ

### アトラクション

しよくじゆ 植樹ウーマン コノハ

今年度はこどもサミットに先立ち、アトラクションとして、植樹ウーマン コノハさんによる戦隊ショーを上演しました。コノハさんは、宮城県内を中心に、環境保護の大切さを訴えて活動されています。

会場の子供たちに「里山の森や農村はおいしい水や空気を作ってくれています。田んぼや畑の土は、私たちの命と心を守っていてくれます。里山や農村を大切に、環境を良くするために、みんな夢と希望をもって、できることから始めよう」とメッセージを送りました。



戦隊ショー

### 事例発表

各県代表の小学生が、農業・農村を通じた体験学習で学んだことについて発表しました。  
(プログラム参照)

事例発表のなかで、体験学習の感想として「命のつながりと大切さを実感した」、「命と自然環境について考えていきたい」、「農業はとても大変な仕事だ。だけど興味を持った」、「農業発展のため自分たちのできることを考えていきたい」、「無農薬米は手間と時間がかかり苦労が多い」、「無農薬のお米が広まればいい」、「米づくりの大変さとすばらしさを学んだ」、「自然の大切さや人とのかかわり合いを大切にしていきたい」、「安全でおいしいものは、身近な土、空気が一番大切である」、「カエルやホタルのすみを愛していきたい」、「米づくりは用水や土づくりの歴史と深く関わることを知った」、「水土里がある自慢できるふるさとにしていきたい」などの発言がありました。



小学生による事例発表

## パネルディスカッション

コーディネーター：川村 達氏<sup>かわむら とおる</sup> パネリスト：発表児童、佐藤 昭一氏<sup>さとう しょういち</sup>、鹿野 清一氏<sup>かの せいいち</sup>

「自分たちの地域にある”水、田んぼや畑、農村”のことをどのように思い、将来、大人になったときにどのような姿であってほしいか、またそのために、自分たちがどのようなことを出来るか」をテーマに話し合いました。

事例発表をした子供たちからは、「田んぼでは季節の変化もわかるので心も落ち着く」、「田んぼや水が身近にあることに感謝している。今後もその環境を大切にしていきたい」、「余り農薬を使わないで農業をやって欲しい」、「大人になった時も、きれいな水が流れる川があって欲しい」、「もっと農業を大切に、田んぼや畑を守って欲しい」、「余計な建物は造らないで欲しい」、「ホタルや蛙が住み続けて欲しいので、月に1回ゴミ拾いや草取りをしたり、洗剤を使わずに気をつけている」、「田んぼや自然の良さをもっと伝えていきたい」などの発言がありました。

パネリストの佐藤氏は、「自然環境を守る、安全・安心な食べ物などの食育、命の大切さ、自分でできることなど、すばらしい意見が出されました。大人は、作業の効率化や利便性を求めていることに、改めて考えさせられました。皆さんが大人になっても、それぞれの地域で豊かな水土里を大切な財産として守って行って下さい」と、子供たちへの期待を込めました。

鹿野氏は、「田んぼは不思議なもので、春先には土の中から虫が出て、水を入れるとカエルやドジョウ、フナが入ってくる。田んぼの回りの草からは蝶が出て、のちにはクモが巣を張る。本来、田んぼの回りではいろんな生きものが虫を食べながらすんでいる。だから、田んぼでは、虫がじゃまだからといって薬を使わないで、いろんな生きものに感謝し、共存することが大事です。農家も環境保全米ということで、皆さんにおいしいお米をお届けするように取り組んでいます」と、環境保全型農業が大切であると述べました。

コーディネーターの川村氏は、「皆さんは、それぞれの暮らす地域が“いいところだ”と気づいたことはすばらしいことです。自分たちの地域の自然環境のこと、農業のこと、田んぼのこと、農村のこと、これからも続けて勉強して欲しいと思います」と期待を述べ、意見交換を締めくりました。



パネルディスカッション

## 閉会あいさつ

東北農政局整備部長 丸山 和彦<sup>まるやま かずひこ</sup>

「皆さんの発表では、コメをテーマにした学習が多くありましたが、私たちの食の原点をしっかり勉強していただいているとうれしく思いました。また、命の大切さ、環境の大切さが共通して述べられていました。農村の豊かな自然や美しい風景は、地域みんなの財産です。農林水産省は、これらを守っていく活動に対して支援しているところです。子供たちも参加できるので、ふるって参加ください」と述べ、閉会した。



閉会あいさつ



記念撮影